



業況DIは7.4ポイントの上昇

～令和3年10-12月期中小企業景気動向調査結果～

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）では、四半期ごとに県内中小企業の景気動向等を把握するため、県内中小企業2,000社を対象とした「中小企業景気動向調査」を実施しています。

令和3年10-12月期の調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

◇要旨

1. 総合の業況DIは、前期比7.4ポイント上昇の▲38.2となりました。
経営状況では、売上DIは前期比15.9ポイント上昇の▲18.5、また、採算DIは同6.7ポイント上昇の▲29.7となりました。
2. 業種別の業況DIでは、製造業は前期比2.6ポイント上昇の▲25.8となりました。中分類では、一般機械は同2.7ポイント上昇の▲20.9、電気機械は同17.5ポイント上昇の▲16.7、輸送用機械は同10.9ポイント低下の▲36.8となりました。
建設業の業況DIは、前期比10.9ポイント上昇の▲16.8となりました。
商業・サービス業の業況DIは、前期比9.3ポイント上昇の▲50.8となりました。中分類では、卸売業は同0.9ポイント低下の▲48.1、小売業は同9.7ポイント上昇の▲60.1、飲食店は同22.0ポイント上昇の▲63.5、サービス業は同11.0ポイント上昇の▲30.3となりました。
3. 今後の総合の業況DIを見ると、3か月後は現在比3.7ポイント上昇の▲34.5、半年後は同6.1ポイント上昇の▲32.1を見込んでいます。
4. 企業からは、「原料の高騰により、利益が下がる中、お客様の稼働状況が悪いが、来年の3月迄、乗り切る手立は出来た。」「個人客の引き合いが増えているが、公共事業の受注が減っている。前期よりは少しずつ改善はしているものの、見通しは不明。」「10月中旬より客数も増して売上も伸びている。このまま好調であれば良いが。」などの声が聞こえました。

▼本件に関するお問い合わせ先
(公財) 神奈川産業振興センター (KIP)
(Kanagawa Industrial Promotion Center)
総務部総務課 上野
TEL 045-633-5101 FAX 045-633-5018
URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail: kikaku@kipc.or.jp

令和3年10-12月期中小企業景気動向調査結果

業況DIは7.4ポイントの上昇

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）が四半期ごとに実施している「中小企業景気動向調査」の令和3年10-12月期の調査結果をまとめましたので、ご報告いたします。

1. 調査要領

- ・調査時期：令和3年11月
- ・調査対象：神奈川県内中小企業2,000社
- ・回答数（率）：1,048社（52.4%） ※詳細は下記の通り
- ・調査方法：調査対象へ郵送
- ・分析方法：DI（Diffusion Index）※による分析

※業況等について「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	350	63.6%
建設業	250	133	53.2%
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	565	47.1%
合計	2,000	1,048	52.4%

2. 調査結果

（1）総合

	令和3年				令和4年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
業況DI	▲50.6	▲44.5	▲45.6	▲38.2	▲34.5	▲32.1
売上DI	▲45.9	▲33.3	▲34.4	▲18.5	—	—
採算DI	▲43.3	▲36.1	▲36.4	▲29.7	—	—

総合の業況DIは、前期比7.4ポイント上昇の▲38.2となった。

経営状況では、売上DIは前期比15.9ポイント上昇の▲18.5、また、採算DIは同6.7ポイント上昇の▲29.7となった。

今後の業況DIを見ると、3か月後は現在比3.7ポイント上昇の▲34.5、半年後は同6.1ポイント上昇の▲32.1を見込んでいる。

（2）業種別特徴

<製造業>

	令和3年				令和4年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
業況DI	▲48.4	▲36.1	▲28.4	▲25.8	▲24.2	▲20.1
売上DI	▲32.2	▲19.6	▲11.1	▲12.9	—	—
採算DI	▲33.5	▲30.8	▲22.3	▲27.4	—	—

製造業の今期の業況DIは、前期比2.6ポイント上昇の▲25.8となった。

経営状況では、売上DIは、前期比1.8ポイント低下の▲12.9、採算DIは同5.1ポイント低下の▲27.4となった。

「コロナ禍の中、止まっていた設備等が動き出し、活況な状況です。材料不足に伴う素材の高騰が心配です。」「原料の高騰により、利益が下がる中、お客様の稼働状況が悪いが、来年の3月迄、乗り切る手立は出来た。」「受注環境が改善され、今後に期待がもてるようになってきたが、部品不足が続いており、生産効率の改善までには至っていない。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比1.6ポイント上昇の▲24.2、半年後は同5.7ポイント上昇の▲20.1を見込んでおり、「受注状況が活発なことで、製品の一部に値上りもあり、当面は業績好調を維持出来る見通しです。」「半導体、ディスプレイ製造装置共に受注が伸びてきている。材料価格が増大している部分が利益を圧迫しているが、売上高は伸びていく。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況DIは以下の通り。

	令和3年				令和4年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
一般機械	▲46.7	▲41.5	▲23.6	▲20.9	▲25.9	▲16.5
電気機械	▲44.7	▲31.1	▲34.2	▲16.7	▲15.5	▲20.7
輸送用機械	▲52.5	▲34.5	▲25.9	▲36.8	▲32.7	▲23.6
その他	▲50.0	▲35.7	▲29.1	▲30.3	▲25.2	▲20.5

中分類で見ると、一般機械は前期比2.7ポイント上昇の▲20.9、電気機械は同17.5ポイント上昇の▲16.7、輸送用機械は同10.9ポイント低下の▲36.8となった。

今後の業況DIは、3か月後は一般機械が現在比5.0ポイント低下の▲25.9、電気機械が同1.2ポイント上昇の▲15.5、輸送用機械は同4.1ポイント上昇の▲32.7、半年後は一般機械が同4.4ポイント上昇の▲16.5、電気機械が同4.0ポイント低下の▲20.7、輸送用機械は同13.2ポイント上昇の▲23.6を見込んでいる。

< 建設業 >

	令和3年				令和4年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
業況DI	▲14.3	▲29.1	▲27.7	▲16.8	▲17.6	▲24.6
売上DI	▲19.8	▲41.0	▲32.8	▲14.3	—	—
採算DI	▲24.2	▲29.9	▲31.1	▲22.6	—	—

建設業の今期の業況DIは、前期比10.9ポイント上昇の▲16.8となった。

経営状況では、売上DIは前期比18.5ポイント上昇の▲14.3、採算DIは同8.5ポイント上昇の▲22.6となった。

「今年度分の工事は受注しましたので、順調だと思われます。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比0.8ポイント低下の▲17.6、半年後は同7.8ポイント低下の▲24.6を見込んでおり、「個人客の引き合いが増えているが、公共事業の受注が減っている。前期よりは少しずつ改善はしているものの、見通しは不明。」「民間企業関連の建築に関わる物件が減っており、官庁工事が同じく受注機会もしばらく様子見の状況である。また、材料、人件費の高騰、人材不足等、先行が不安である。」といった声も聞かれた。

< 商業・サービス業 >

	令和3年				令和4年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
業況DI	▲60.3	▲53.5	▲60.1	▲50.8	▲44.9	▲41.3
売上DI	▲60.7	▲40.6	▲49.3	▲22.9	—	—
採算DI	▲53.9	▲41.0	▲46.3	▲32.9	—	—

商業・サービス業の業況DIは、前期比9.3ポイント上昇の▲50.8となった。

経営状況では、売上DIは前期比26.4ポイント上昇の▲22.9、採算DIは同13.4ポイント上昇の▲32.9となった。「10月に入ってから、緊急事態宣言が解除されて少し潮目が変わったように感じる。特にネット販売に関して。」「10月中旬より客数も増して売上も伸びている。このまま好調であれば良いが。」「土、日の客足が少しずつ増えてきた。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比5.9ポイント上昇の▲44.9、半年後は同9.5ポイント上昇の▲41.3を見込んでいる。「3年9月期より顧客巡回が出来る様に成り、反応が見られる。これより後半は少しずつ上向きに成る様、巡回訪問をすれば、2、3年前に戻ると思う。」「長い長い自粛が終わり、少しだけ前が明るくなってきた様子。このまま、コロナが終息することを祈る。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の各々の業況DIは以下の通り。

	令和3年				令和4年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
卸売業	▲57.0	▲51.0	▲47.2	▲48.1	▲42.1	▲42.1
小売業	▲57.9	▲51.1	▲69.8	▲60.1	▲54.3	▲47.5
飲食店	▲96.1	▲91.4	▲85.5	▲63.5	▲43.2	▲39.5
サービス業	▲46.7	▲39.9	▲41.3	▲30.3	▲33.1	▲31.9

業種別では、卸売業は前期比0.9ポイント低下の▲48.1、小売業は同9.7ポイント上昇の▲60.1、飲食店は同22.0ポイント上昇の▲63.5、サービス業は同11.0ポイント上昇の▲30.3となった。

今後の業況DIは、3か月後では卸売業が現在比6.0ポイント上昇の▲42.1、小売業は同5.8ポイント上昇の▲54.3、飲食店は同20.3ポイント上昇の▲43.2、サービス業は同2.8ポイント低下の▲33.1、半年後では卸売業が同6.0ポイント上昇の▲42.1、小売業は同12.6ポイント上昇の▲47.5、飲食店は同24.0ポイント上昇の▲39.5、サービス業は同1.6ポイント低下の▲31.9を見込んでいる。

(3) 規模別特徴

		令和3年				令和4年	
		1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
中規模	業況DI	▲48.2	▲35.8	▲38.8	▲30.5	▲28.1	▲25.3
	売上DI	▲41.2	▲23.8	▲27.8	▲9.3	—	—
	採算DI	▲40.7	▲26.6	▲30.9	▲27.1	—	—
小規模	業況DI	▲53.4	▲54.6	▲53.6	▲47.0	▲41.8	▲39.9
	売上DI	▲51.7	▲44.2	▲42.1	▲28.9	—	—
	採算DI	▲46.3	▲46.9	▲42.8	▲32.8	—	—

規模別の業況DIは、中規模企業は前期比8.3ポイント上昇の▲30.5、小規模企業は同6.6ポイント上昇の▲47.0となった。

経営状況では、中規模企業は売上DIが前期比18.5ポイント上昇の▲9.3、採算DIが同3.8ポイント上昇の▲27.1、小規模企業は売上DIが同13.2ポイント上昇の▲28.9、採算DIが同10.0ポイント上昇の▲32.8となった。

今後の業況DIについては、中規模企業は3か月後が現在比2.4ポイント上昇の▲28.1、半年後が同5.2ポイント上昇の▲25.3、小規模企業は3か月後が同5.2ポイント上昇の▲41.8、半年後が同7.1ポイント上昇の▲39.9を見込んでいる。

(4) 地区別特徴（業況DI）

	令和3年				令和4年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
横浜	▲52.4	▲51.9	▲52.5	▲43.7	▲35.7	▲34.2
川崎	▲40.0	▲35.4	▲41.4	▲28.4	▲26.0	▲27.1
横須賀	▲55.1	▲36.4	▲39.6	▲26.0	▲27.8	▲26.8
平塚	▲61.0	▲52.4	▲51.4	▲44.2	▲42.2	▲42.2
藤沢	▲43.8	▲43.0	▲45.5	▲29.8	▲34.6	▲27.2
相模原	▲46.4	▲40.9	▲38.6	▲36.8	▲34.8	▲32.6
厚木	▲46.9	▲32.2	▲36.9	▲38.5	▲36.5	▲29.6
足柄上・西湘	▲59.8	▲55.1	▲50.5	▲50.5	▲37.9	▲35.0

今期の地区別の業況DIは、

横浜地区（前期比8.8ポイント上昇の▲43.7）、川崎地区（同13.0ポイント上昇の▲28.4）、横須賀地区（同13.6ポイント上昇の▲26.0）、平塚地区（同7.2ポイント上昇の▲44.2）、藤沢地区（同15.7ポイント上昇の▲29.8）、相模原地区（同1.8ポイント上昇の▲36.8）、厚木地区（同1.6ポイント低下の▲38.5）、足柄上・西湘地区（前期と同じ▲50.5）となり、6地区で上昇し、1地区で前期と同じ、1地区で低下となった。

今後の業況DIは、3か月後は、

横浜地区（現在比8.0ポイント上昇の▲35.7）、川崎地区（同2.4ポイント上昇の▲26.0）、横須賀地区（同1.8ポイント低下の▲27.8）、平塚地区（同2.0ポイント上昇の▲42.2）、藤沢地区（同4.8ポイント低下の▲34.6）、相模原地区（同2.0ポイント上昇の▲34.8）、厚木地区（同2.0ポイント上昇の▲36.5）、足柄上・西湘地区（同12.6ポイント上昇の▲37.9）となり6地区で上昇し、2地区で低下すると見込んでいる。

半年後は、

横浜地区（現在比9.5ポイント上昇の▲34.2）、川崎地区（同1.3ポイント上昇の▲27.1）、横須賀地区（同0.8ポイント低下の▲26.8）、平塚地区（同2.0ポイント上昇の▲42.2）、藤沢地区（同2.6ポイント上昇の▲27.2）、相模原地区（同4.2ポイント上昇の▲32.6）、厚木地区（同8.9ポイント上昇の▲29.6）、足柄上・西湘地区（同15.5ポイント上昇の▲35.0）となり7地区で上昇し、1地区で低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川県産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

総務部 総務課 上野

TEL:045-633-5101 FAX:045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail:kikaku@kipc.or.jp

景気動向調査 (令和3年10月～12月期)

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業	小計	
回収数		350	133	108	230	85	142	565	1,048
業況判断	現在の業況	▲25.8	▲16.8	▲48.1	▲60.1	▲63.5	▲30.3	▲50.8	▲38.2
	3ヶ月後の業況	▲24.2	▲17.6	▲42.1	▲54.3	▲43.2	▲33.1	▲44.9	▲34.5
	半年後の業況	▲20.1	▲24.6	▲42.1	▲47.5	▲39.5	▲31.9	▲41.3	▲32.1
経営状況	売上	▲12.9	▲14.3	▲18.5	▲32.2	▲2.4	▲23.2	▲22.9	▲18.5
	採算	▲27.4	▲22.6	▲35.2	▲41.2	▲23.2	▲23.4	▲32.9	▲29.7
	引き合い/客数	▲3.4	▲7.8	▲20.6	▲42.3	▲13.3	▲19.9	▲28.1	▲17.3
	単価	▲1.2	▲6.0	▲14.0	▲29.5	▲13.4	▲15.0	▲20.5	▲12.2
	仕入価格	▲76.6	▲67.7	▲74.1	▲57.9	▲73.5	▲43.0	▲59.7	▲66.4
	資金繰り	▲20.7	▲15.0	▲25.9	▲34.2	▲25.6	▲14.3	▲26.3	▲23.0
	残業	▲9.7	▲13.8	▲22.4	▲18.0	▲23.5	▲15.0	▲18.9	▲15.2
	設備稼働	▲10.9	▲6.5	—	—	—	—	—	▲9.7
前期経営実績	売上水準	▲25.0	▲26.5	▲40.7	▲52.6	▲77.4	▲34.5	▲49.5	▲38.4
	利益水準	▲8.6	▲4.5	▲22.2	▲33.6	▲67.9	▲17.6	▲32.5	▲21.0
	在庫	7.0	▲3.4	9.4	1.8	▲4.8	▲6.5	0.4	2.2
	投資	▲10.7	▲9.4	▲20.2	▲16.9	▲32.9	▲10.6	▲18.5	▲14.7
	雇用状況	▲13.6	▲42.7	0.0	▲13.0	▲18.1	▲22.5	▲13.7	▲17.4

参考<前回調査> 景気動向調査

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業	小計	
回収数		351	119	108	232	76	150	566	1,036
業況判断	現在の業況	▲28.4	▲27.7	▲47.2	▲69.8	▲85.5	▲41.3	▲60.1	▲45.6
	3ヶ月後の業況	▲28.6	▲29.1	▲52.3	▲71.4	▲80.0	▲41.9	▲61.0	▲46.4
	半年後の業況	▲26.5	▲29.6	▲50.0	▲62.4	▲69.3	▲41.2	▲55.3	▲42.7
経営状況	売上	▲11.1	▲32.8	▲32.4	▲62.8	▲73.3	▲28.7	▲49.3	▲34.4
	採算	▲22.3	▲31.1	▲39.8	▲55.7	▲67.1	▲25.7	▲46.3	▲36.4
	引き合い/客数	▲11.5	▲23.1	▲27.8	▲57.6	▲76.0	▲21.8	▲44.9	▲31.1
	単価	▲11.4	▲6.8	▲14.0	▲47.0	▲52.0	▲17.7	▲33.6	▲23.0
	仕入価格	▲68.5	▲48.7	▲58.3	▲39.7	▲49.3	▲27.3	▲41.4	▲51.5
	資金繰り	▲20.2	▲14.3	▲31.5	▲37.4	▲53.3	▲22.1	▲34.3	▲27.2
	残業	▲8.0	▲17.6	▲28.7	▲26.0	▲61.3	▲19.2	▲29.5	▲20.7
	設備稼働	▲12.3	▲12.4	—	—	—	—	—	▲12.3
前期経営実績	売上水準	▲27.1	▲27.1	▲37.0	▲56.0	▲82.7	▲34.0	▲50.1	▲39.7
	利益水準	▲10.0	▲0.9	▲11.1	▲35.5	▲68.0	▲13.4	▲29.3	▲19.5
	在庫	6.4	▲1.9	13.3	▲1.3	5.4	▲6.1	1.3	2.7
	投資	▲10.3	▲10.8	▲22.1	▲16.3	▲36.5	▲10.9	▲18.8	▲14.9
	雇用状況	▲6.6	▲29.9	▲1.9	▲3.1	1.4	▲21.9	▲7.3	▲9.6

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		191	159	64	69	304	261	559	489
業 況 判 断	現在の業況	▲18.3	▲34.8	▲6.3	▲26.9	▲43.2	▲59.6	▲30.5	▲47.0
	3ヶ月後の業況	▲21.6	▲27.5	▲7.8	▲26.9	▲36.7	▲54.3	▲28.1	▲41.8
	半年後の業況	▲16.0	▲25.2	▲18.8	▲30.3	▲32.8	▲51.2	▲25.3	▲39.9
経 営 状 況	売上	▲9.5	▲17.0	▲1.6	▲26.1	▲10.9	▲36.9	▲9.3	▲28.9
	採算	▲30.7	▲23.4	▲18.8	▲26.1	▲26.6	▲40.3	▲27.1	▲32.8
	引き合い/客数	0.0	▲7.6	0.0	▲14.9	▲18.8	▲38.8	▲10.2	▲25.4
	単価	2.1	▲5.1	▲10.9	▲1.4	▲15.1	▲26.7	▲8.7	▲16.1
	仕入価格	▲78.0	▲74.8	▲64.1	▲71.0	▲56.9	▲63.0	▲65.0	▲68.0
	資金繰り	▲17.9	▲24.1	▲12.5	▲17.4	▲20.7	▲32.9	▲18.8	▲27.8
	残業	▲7.9	▲12.0	▲12.5	▲15.2	▲18.5	▲19.4	▲14.1	▲16.4
	設備稼働	▲8.9	▲13.3	▲1.6	▲11.7	—	—	▲7.1	▲12.8
前 期 経 営 実 績	売上水準	▲20.5	▲30.4	▲20.3	▲32.4	▲44.7	▲55.0	▲33.7	▲43.8
	利益水準	1.6	▲20.9	3.1	▲11.8	▲27.1	▲38.8	▲13.8	▲29.2
	在庫	11.8	1.3	▲3.2	▲3.5	2.4	▲2.0	5.0	▲1.1
	投資	▲7.4	▲14.7	▲6.3	▲12.7	▲14.4	▲23.2	▲11.0	▲19.0
	雇用状況	▲15.7	▲11.0	▲54.7	▲31.3	▲13.8	▲13.5	▲19.2	▲15.2

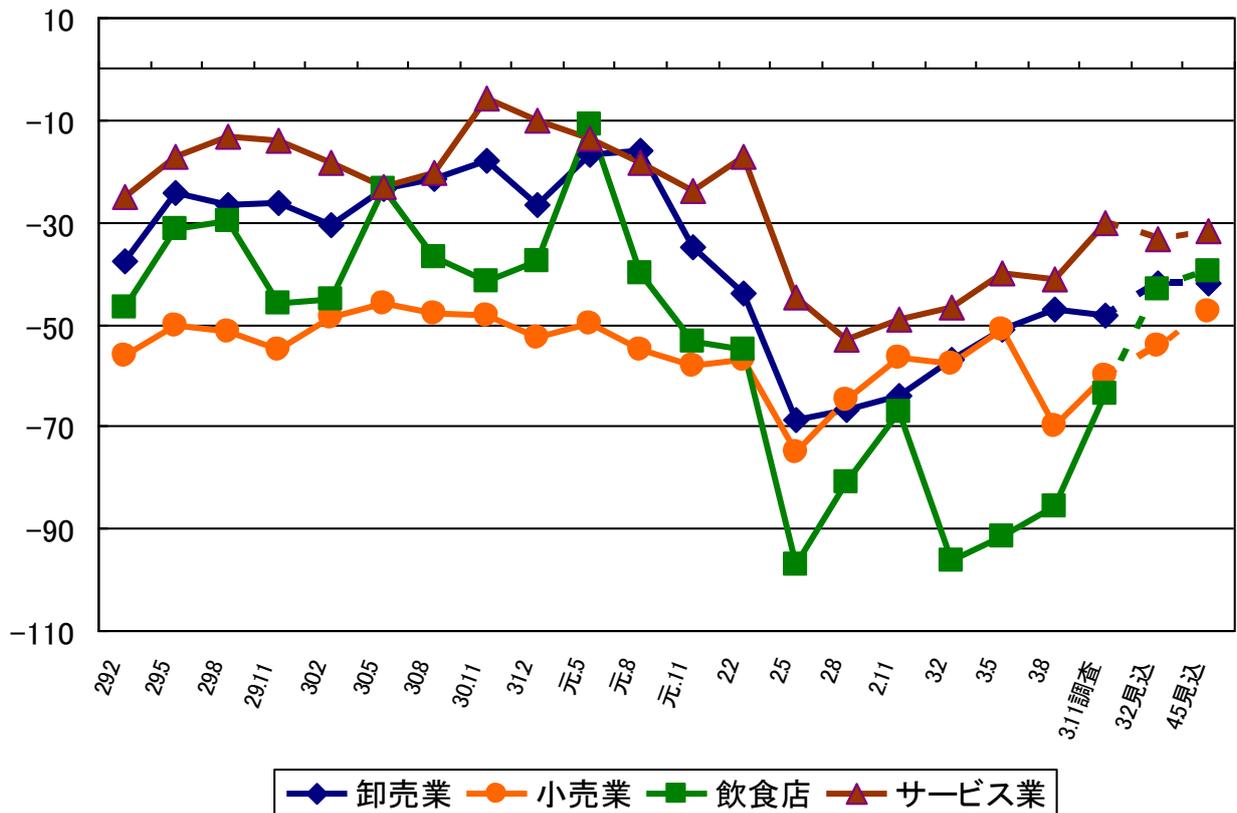
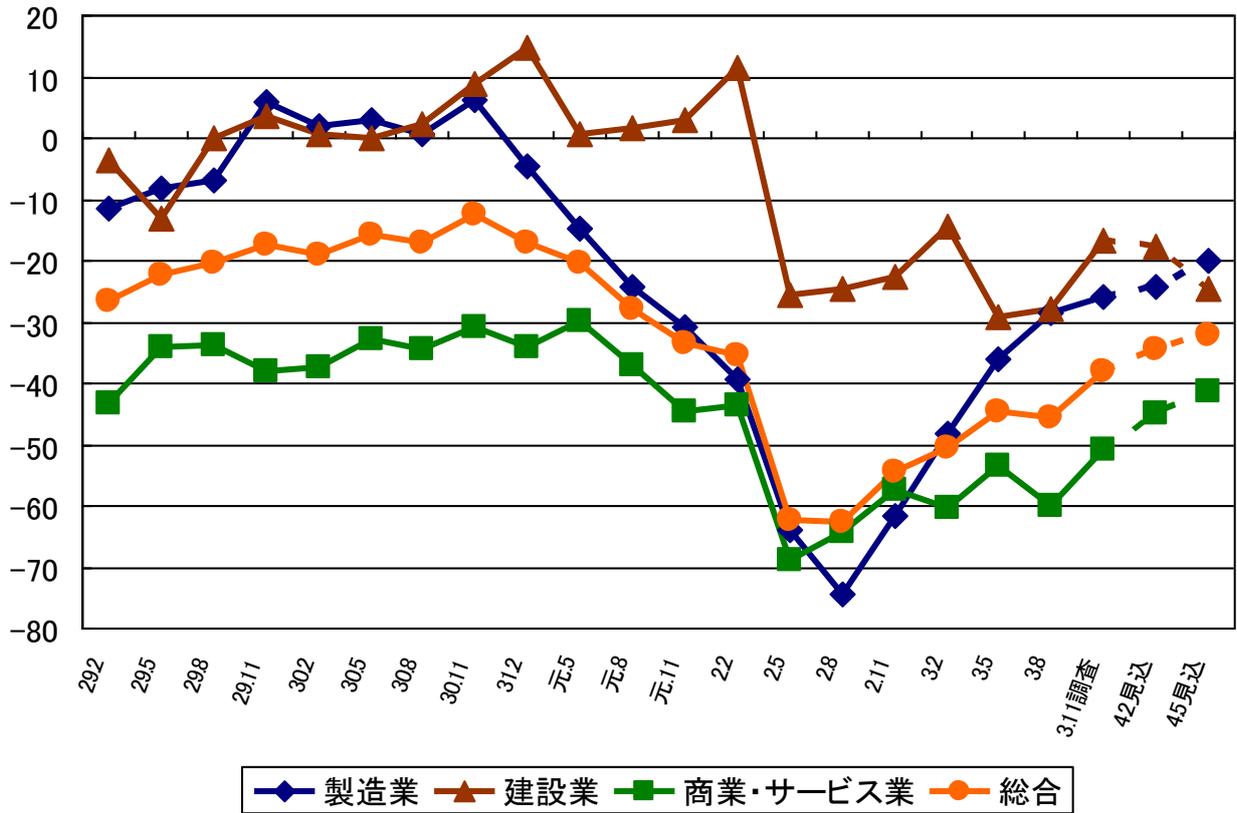
地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湘	総合
回収数		285	135	100	105	104	95	117	107	1,048
業 況 判 断	現在の業況	▲43.7	▲28.4	▲26.0	▲44.2	▲29.8	▲36.8	▲38.5	▲50.5	▲38.2
	3ヶ月後の業況	▲35.7	▲26.0	▲27.8	▲42.2	▲34.6	▲34.8	▲36.5	▲37.9	▲34.5
	半年後の業況	▲34.2	▲27.1	▲26.8	▲42.2	▲27.2	▲32.6	▲29.6	▲35.0	▲32.1
経 営 状 況	売上	▲19.7	▲5.2	▲20.4	▲20.0	▲23.1	▲14.7	▲29.9	▲15.0	▲18.5
	採算	▲29.0	▲20.9	▲38.8	▲31.7	▲26.0	▲28.7	▲40.2	▲25.7	▲29.7
	引き合い/客数	▲17.0	▲6.0	▲14.4	▲22.1	▲27.9	▲13.8	▲21.6	▲18.1	▲17.3
	単価	▲10.2	0.7	▲12.2	▲17.3	▲13.9	▲17.2	▲22.2	▲11.4	▲12.2
	仕入価格	▲68.9	▲64.9	▲67.4	▲66.7	▲62.5	▲67.0	▲69.6	▲60.4	▲66.4
	資金繰り	▲24.6	▲20.1	▲18.6	▲28.6	▲19.2	▲22.3	▲26.5	▲21.5	▲23.0
	残業	▲12.5	▲12.8	▲19.4	▲12.6	▲18.3	▲10.9	▲20.9	▲18.1	▲15.2
	設備稼働	▲4.1	0.0	▲4.8	▲7.0	▲30.6	▲13.7	▲14.5	▲12.2	▲9.7
前 期 経 営 実 績	売上水準	▲42.9	▲26.9	▲21.0	▲50.5	▲26.0	▲38.9	▲41.0	▲54.2	▲38.4
	利益水準	▲27.6	▲13.4	▲12.0	▲26.7	▲19.2	▲14.9	▲14.5	▲29.9	▲21.0
	在庫	1.9	▲3.1	1.1	3.9	5.0	6.4	▲4.4	9.6	2.2
	投資	▲15.6	▲8.3	▲7.3	▲21.4	▲21.6	▲20.7	▲10.5	▲13.5	▲14.7
	雇用状況	▲17.0	▲21.1	▲23.7	▲17.6	▲20.4	▲14.1	▲19.1	▲5.7	▲17.4

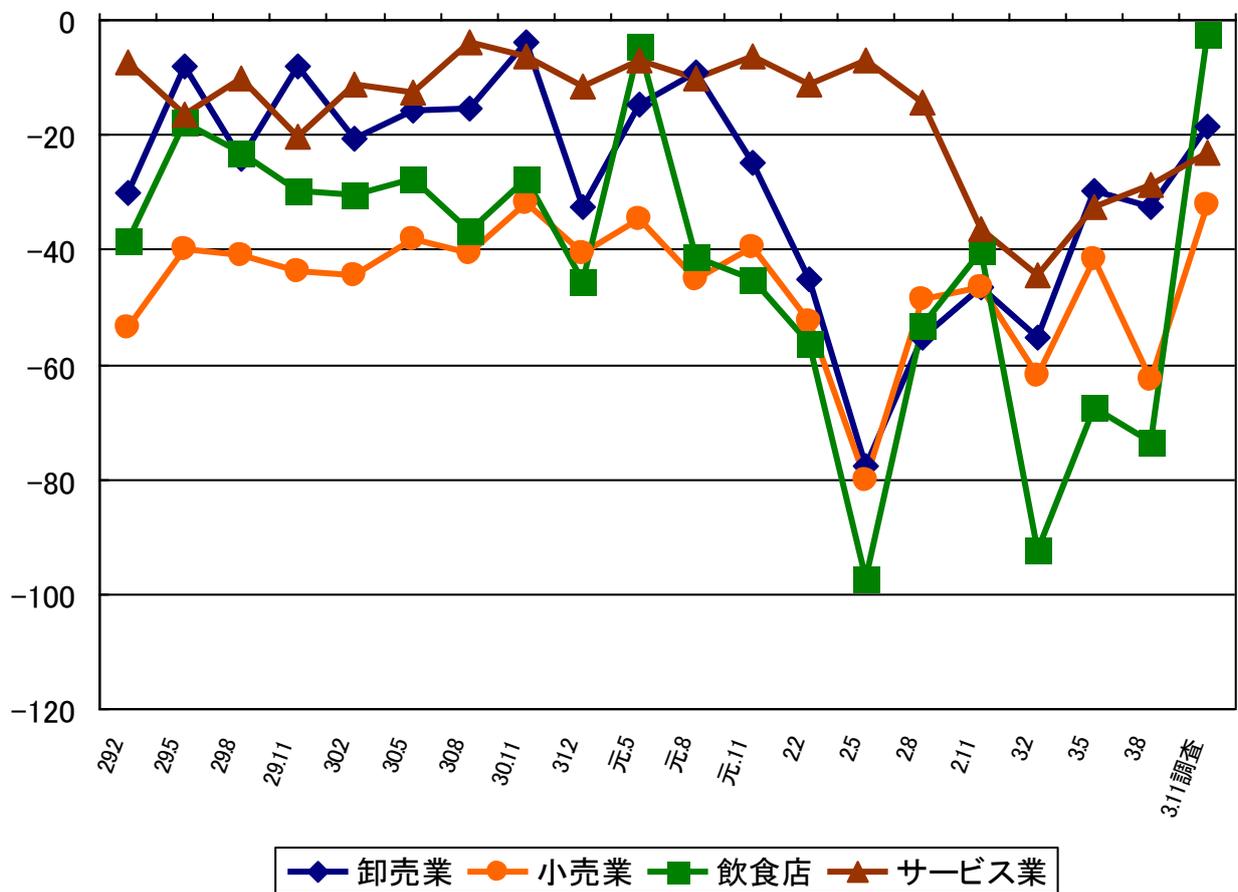
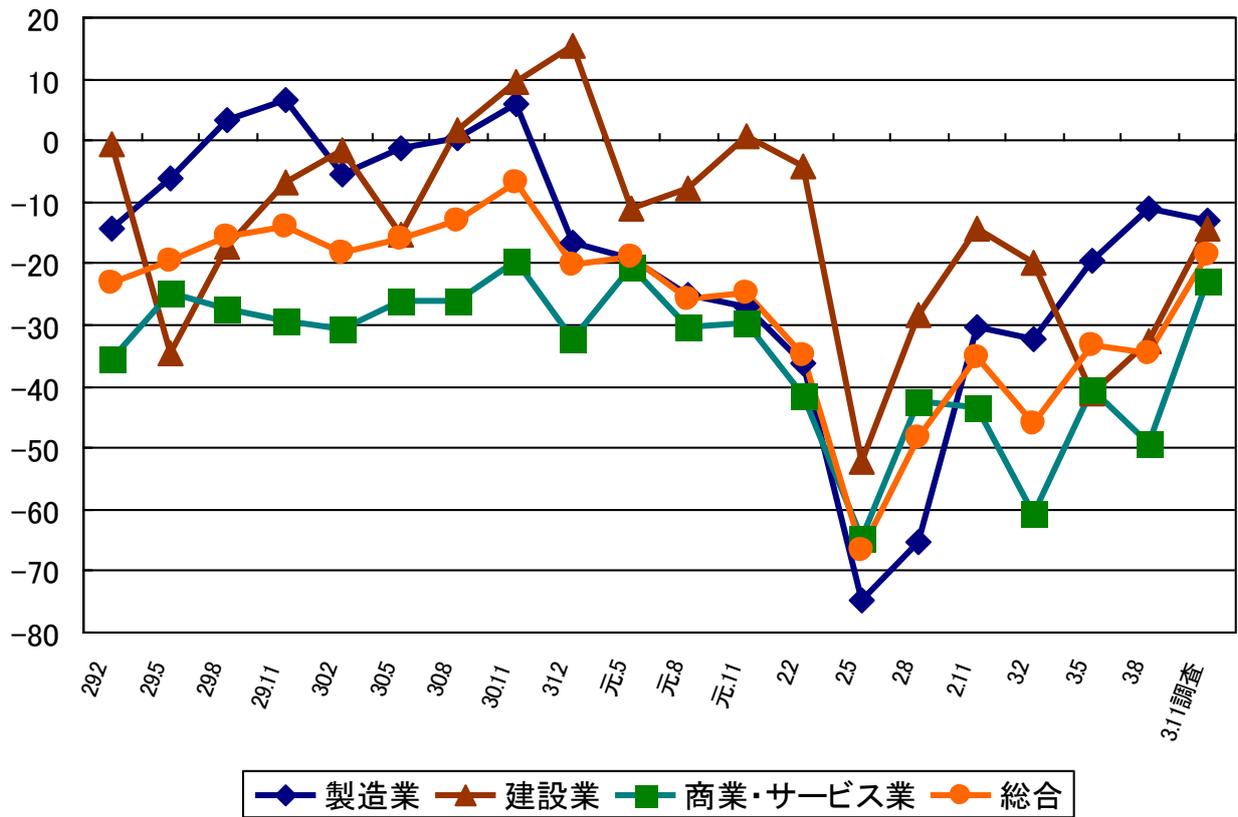
製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		86	84	58	122	350
業 況 判 断	現在の業況	▲20.9	▲16.7	▲36.8	▲30.3	▲25.8
	3ヶ月後の業況	▲25.9	▲15.5	▲32.7	▲25.2	▲24.2
	半年後の業況	▲16.5	▲20.7	▲23.6	▲20.5	▲20.1
経 営 状 況	売上	▲16.5	9.5	▲34.5	▲15.6	▲12.9
	採算	▲27.1	▲19.0	▲52.6	▲21.5	▲27.4
	引き合い/客数	▲4.7	10.7	▲17.5	▲5.8	▲3.4
	単価	3.5	3.6	0.0	▲8.3	▲1.2
	仕入価格	▲73.3	▲79.8	▲78.6	▲75.8	▲76.6
	資金繰り	▲21.2	▲9.6	▲31.0	▲23.0	▲20.7
	残業	▲8.1	0.0	▲21.1	▲12.3	▲9.7
	設備稼働	▲5.8	1.2	▲24.6	▲16.4	▲10.9
前 期 経 営 実 績	売上水準	▲19.8	▲15.5	▲37.5	▲29.5	▲25.0
	利益水準	▲15.1	▲6.0	▲10.5	▲4.9	▲8.6
	在庫	3.6	3.6	9.1	10.8	7.0
	投資	▲9.5	▲11.9	▲1.8	▲14.9	▲10.7
	雇用状況	▲15.1	▲9.5	▲23.2	▲10.8	▲13.6

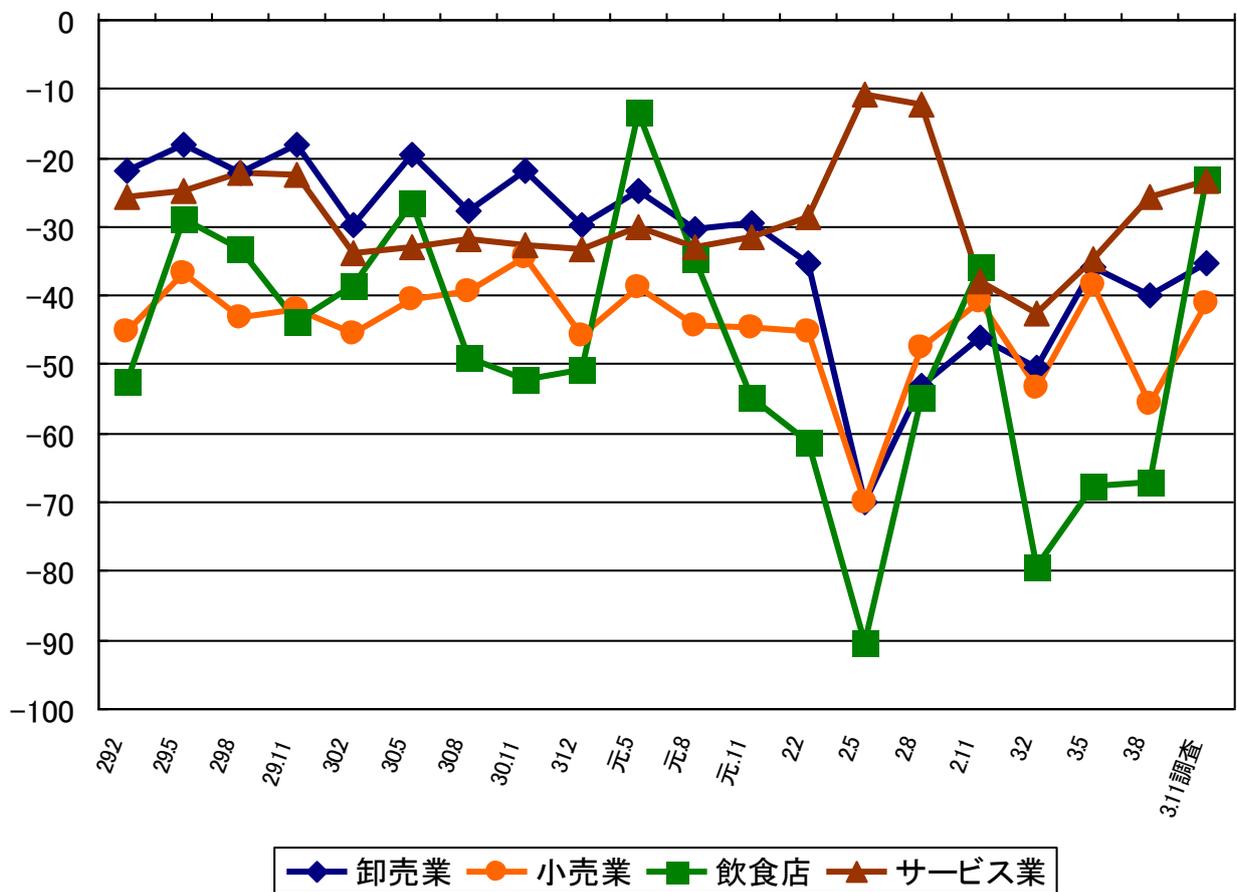
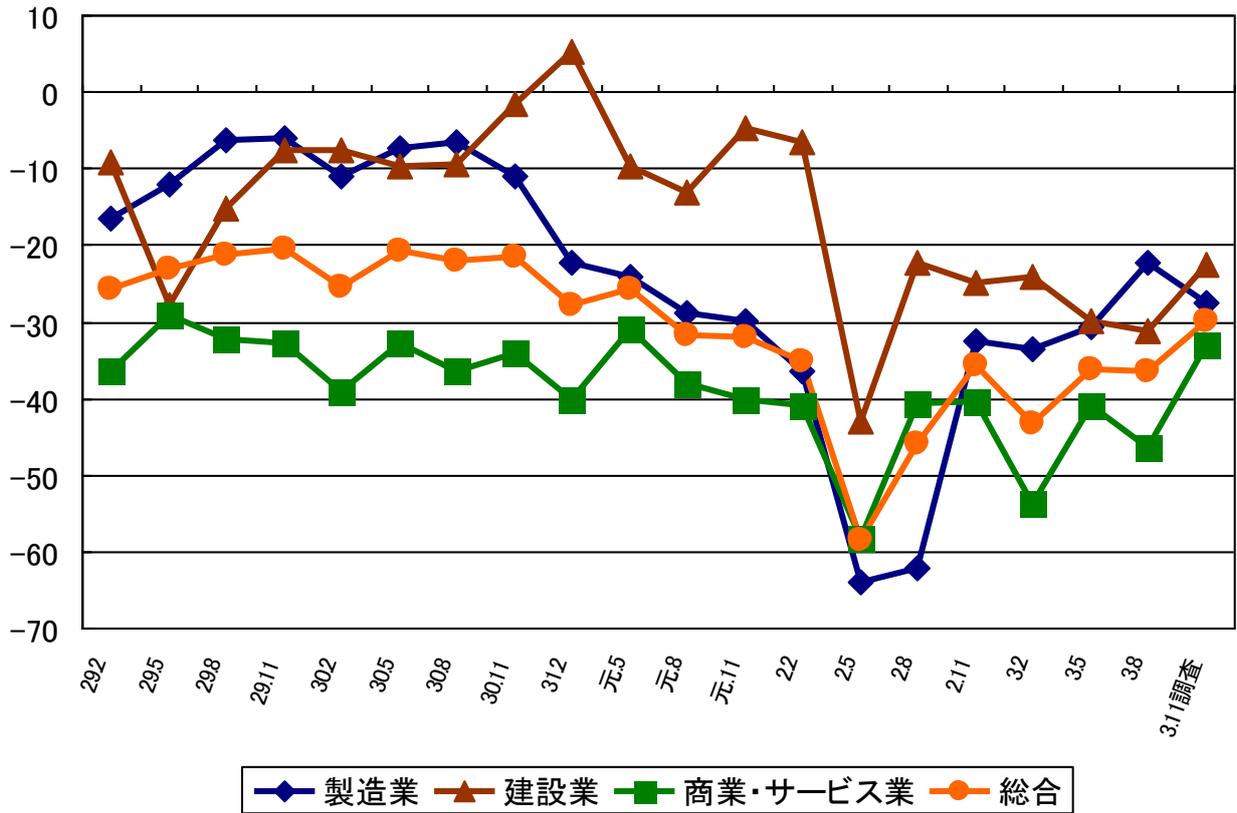
業況DIの推移



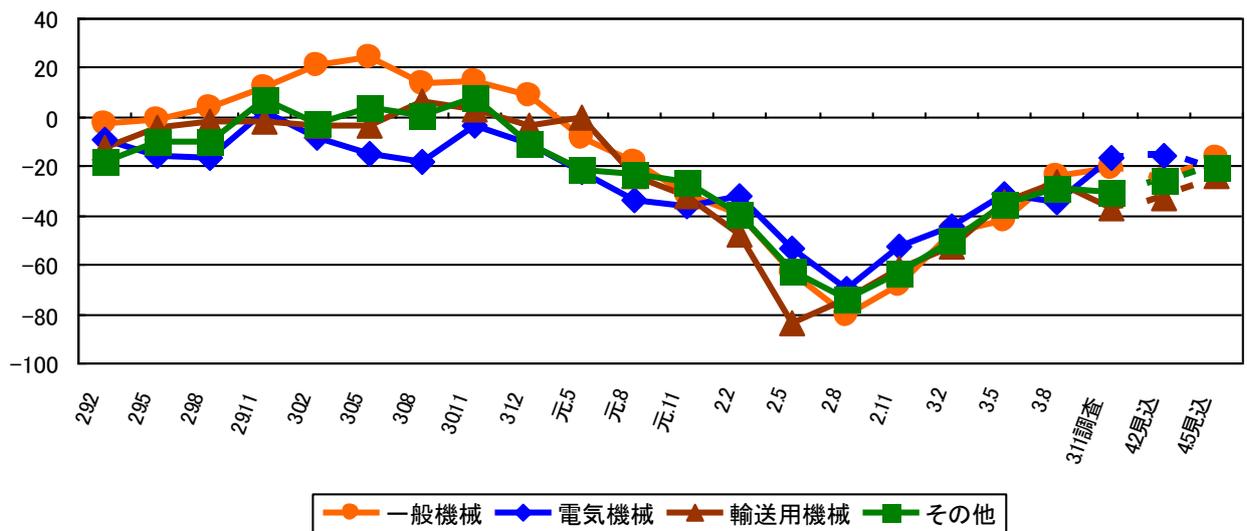
売上DIの推移



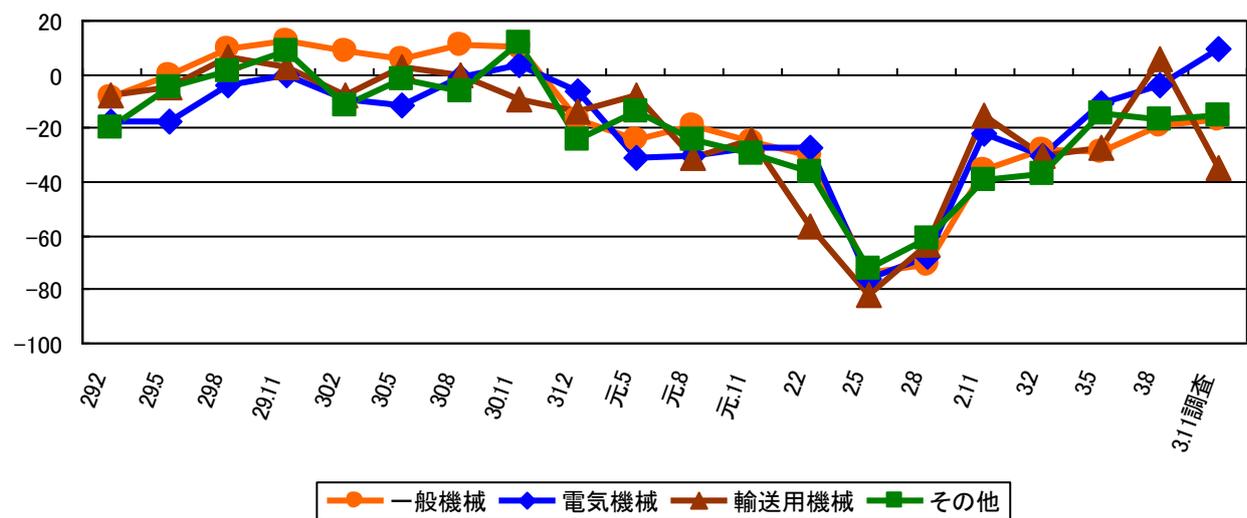
採算DIの推移



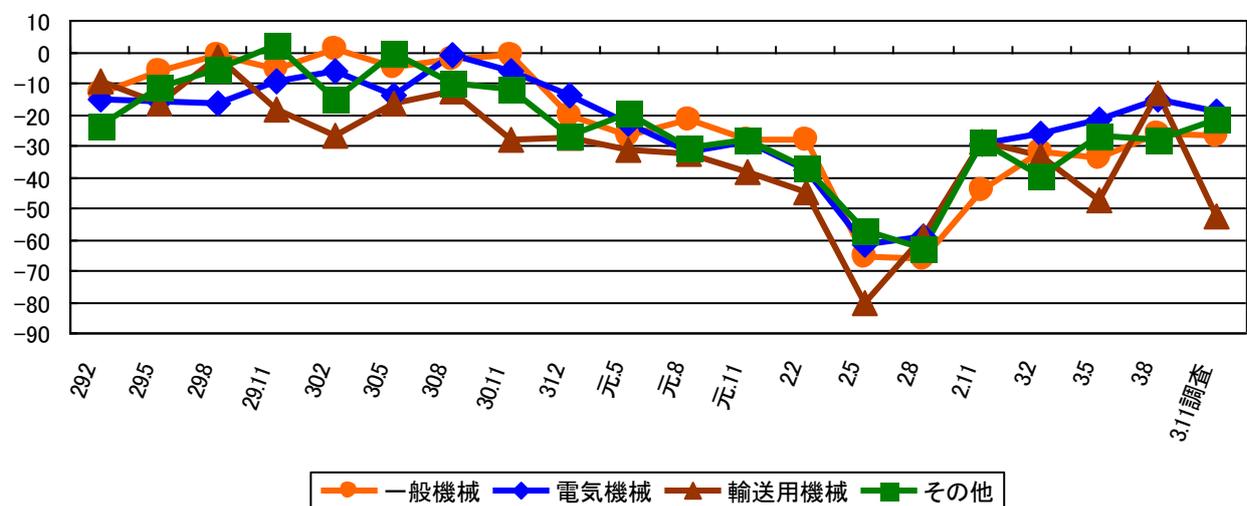
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



調査回答企業からのコメント(一部)

<製造業>

「ガソリン代等の油類について値上げが激しく、物流費、電気料金の上昇を懸念している。鋼材等の値上げを織り込んだ再見積が、客先に承認されるか心配です。」
「11・12月以降に売上回復。来期3月より急増の製造打診あり。(先行して材料費急増。)」
「自動車部品は、メーカーの生産調整(減産)を受けて低調。空気清浄機等家電部品は好調。今後も減産になる予測もあり、不透明。」
「コロナ禍により売上が激減し、非常に苦しい状態です。今後の見通しは全く不明です。」
「昨年はコロナの影響で売上大幅減であったため、前年比は伸びているものの平年並みと言える。中国の需要が大幅に回復している。」
「この数ヶ月間で仕入鋼材、材料費の高騰が著しく、見積りに苦慮している。また、電機部品で入手が困難で納期が延びることが多い。その分、売上げにもつながらず、予想以上に先が読めず、計画も立てづらい。」
「半導体業界好調につき受注量増加にあるが、労働力不足の補充が間に合っておらず、体制整備を急いでいる。」
「相変わらず一進一退の状況です。暮れにかけて少し売上は増えますが、その先の年度末、来年度は全く見通しがつきません。」
「7~9月の受注が落ちたので、10月以降の売上に影響している。10月に入り、受注は戻りつつある。」
「発注元は自動車産業関連の為、半導体の回復が待たれる。当分の間、設備投資(発注量)は低迷する。」
「材料が高くなり、今以上に材料費が上る見込みとの事で、これ以上材料費が上がらないうちに仕入れを増やしたりと大変である。コロナ禍における営業はできず、単価(客先)を上げると受注も減少し、どうにかこの状態を乗りこえる為、日々大変である。取引先も工場、工事等がStopしている為、コロナが終息しないと前の状態になるまでには時間がかかりそうだ。大変なのは飲食だけでなく、皆大変だという事を考えて欲しい。」
「客先で海外調達品がコロナの影響で入らず、生産調整となっている。国内はコロナ落ち着いて来たが、海外のサプライチェーンの回復が遅れている。」
「売上は減少のまま以前の様には戻らず。助成金等もなく、コロナ借入金の返済がはじまり、電気代値上がり。大変すぎます。」
「10月に入ってから、引き合いが少し多くなってきており、メインのお客様から仕事が出てきています。」

<建設業>

「資材の高騰が止まりません。インフレに流れが変わったように感じます。」
「大型受注案件の話しが乏しく見通しがつきづらい状況。」
「新築一棟の受注により、資金繰りは今のところ順調ですが、この先の受注の見通しがつきません。」
「コロナの影響で商品の入荷が遅れがちな為、工事の受注が難しい状態が続いている。」
「ウッドショックと設備品の生産減の為、昨年~今年2月までの受注物件は高騰のあおりを受け、工務店負担増となっている。利益は下がる一方です。下がった分だけでも補助金等を検討してもらわないと潰れるところが増えます。」
「好調の見込み。」
「人員不足の為、公共工事受注出来ず、今期赤字予定。」
「銅を始めとする仕入単価の上昇による採算悪化が懸念される。」
「7~9月期と比較し、民間の工事受注件数は増加しているが、大型案件の受注が少ない。公共工事も含め他社競争の激化や、鉄をはじめ材料の値上がりによる受注への影響も懸念され、今後の見通しは不透明。」
「今後の見通しは良いと思います。(来年の春までは。)」

<卸売業>

「顧客の外出チャンスが増加すれば、需要も増えることに期待。」
「円安、運賃、原材料と仕入価格が高騰する要因が多く、採算性は悪化が見込まれます。」
「国内・国外の材料共、昨年に比べ約2倍の価格になっている。自動車メーカーの生産量が減の為に売上が上がらない。」
「季節商品に付き、夏は売上が上昇し、冬は少し減ります。今後の懸念は海外生産品。特に中国生産商品の仕入コスト上昇と納期の遅れです。」
「コロナが減り、少しずつ人が動いてきた。週末を中心に。ただ、お土産が売れるにはまだ時間が掛かりそうだ。」
「原材料費が高騰。仕入価格の値上げが相次いでいる。」
「材料の値上がりが受注に影響しています。重油等、すべてが値上っている状況で、取引先の判断によるところが大きいと思います。」
「非常に悪い。去年よりは良いが、コロナ前の6割程度なので、支援金も出ないので、利益的には去年より悪い。」
「緊急事態宣言が解除されましたが、まだ売上に影響していません。半年後にどうなるか売上が増えることを期待しています。」

調査回答企業からのコメント(一部)

<小売業>

「客の購買意欲が低い。当方のアパレルよりも、食堂、食品の店の方が客数が戻っていると思う。市をあげての地元応援クーポン等（第二弾）も前回の方が内容等の関係で客足が伸びたと思う。値上の要請もかなり多い。」
「宣言が解除されたので、少しは期待しています。」
「コロナの影響は大いにあります。消費者の購買意欲も減っているようで、客の単価も上がらない。来店が少ない。先行きが不透明で不安感もあります。それでも色々考えながら売上を伸ばして行く方法を考えたい。」
「天候不順により果物は全般的に不作で、野菜は相場の乱高下が激しく、競合店との兼ね合いもあり、非常にやりにくいです。」
「IT革命のアマゾンのインターネット販売が主流になってるのではないかと不安です。来店客がマスクとイヤホンで小売業として問答商いが出来ない。」
「コロナでの自宅需要が減り、業務店が増えて来たが、昨年比減少、昨年もあった新規増は今年はほぼ無かったので、年末にどれだけ戻って来る客層があるか心配。」
「今までの販売法では、じり貧の為、売上拡大から利益率重視へ。人手不足案として無人店舗の実験を開始。儲かる仕組みの再構築をして生き残る。」
「どうやって会社を存続していけばいいのか、特に物販店は厳しい。」
「コロナにより、イベントや客足の減少が大きく関係している。」
「長期の宣言期間による販売額の激減、さらに宣言解除後もダメージが続いて売上が定らない状態が長引きそうである。」
「コロナ禍だから気づけることも多く、長期的にはプラスになります。」
「緊急事態宣言が解除され、休業していた飲食店も再開しているところもみうけられますが、まだまだ人通りは少ない。」
「コロナ感染予防商品の需要により、業績はやや好転でしたが、今後、企業活動が活発になるかが不安です。店舗の来客数が減っている。」
「緊急事態宣言が解除になり、少し希望が明るくなる様希望します。」
「コロナ禍の影響により、売上が下がり、利益が上がらない。銀行からの借入があり、この先返済するのにどうしたら良いか頭が痛い。」

<飲食店>

「コロナ禍の助成金及び協力金によって、経営面で大いに助けられたが、今後、お客さんの戻りが気がかりです。」
「最低賃金の値上げや、仕入単価の値上げで、商品の価格の値上げが出来ず、経費が膨れあがっています。コロナでまだ客足が元に戻っていない中、大変厳しい状況です。」
「コロナの影響に尽きる。コロナが収束するまでは全くもって見通しはたたない。」
「9月迄は時短営業と10月の時短営業中は来店客も少なく売上も減少し赤字だったが時短解除後は、少しずつ客も増え、売上も増えてきた。このまま酒の提供が出来れば売上も増えてくると思う。コロナが心配で6波がこなければ売上、客数共、少しずつ戻らと思う。」
「緊急事態宣言も解除になりましたが、お客様の動きが鈍い。また、原材料高騰や、ここにきて最低賃金の引き上げに頭が痛いです。」
「酒類提供が再開し、お客さんが戻って来た感があります。酒の力はすごいですね!。」
「飲食業なので、10月末、お酒の提供、営業時間が元通りとなり、急にお客さんがかけこんで来ているようだ。久しぶりの外食のせいも、客単価が高い。これが、年明けも続くのかどうか、見通し困難。」
「コロナ感染者数減により、緊急事態宣言もなくなり、その反動で売れている。去年のコロナ不安より、今年は少し不安がやわらいだ。慣れてしまっている感じで客足、人出が増えた。今後、また緊急事態になる恐れがあるので、この先は、コロナ次第で売上になると思う。」

<サービス業>

「コロナの影響で店舗休業、客数減少。雇用も不安。」
「昨年末の新型コロナ感染抑止政策により、車両の動きが悪く、整備需要は低迷している。車両販売は少し上向きになっているが、メーカー工場が半導体を始め部品が不足し、生産が遅れている影響で登録が出来ない状態が続く売上は伸びていない。ガソリン等燃料高も加わり消費が低迷している。」
「取引先との金額見直しがあり、今後の予測が不能です。」
「開発設計会社であります。コロナ禍で顧客先の開発が伸びなくなり、開発が進まない。1年遅れで再スタートを切る予定と伝えられていますが、今の所、未定です。」
「コロナで客足が減少しましたが、序々に戻ってきているが、新規が伸び悩み。」
「コロナ禍で営業等できず、売上が上がらない。尚、仕事のキャンセル等も増加中。」
「主たる要因、除去されつつ有る。全体の環境も良好な方向。期待したい。」
「今後は材料不足から価格の高騰が安易に想像が付き、厳しくなると思います。」